

第33期

島づくり人材養成大学

— 「島の日常」のもつ魅力に気づき、
発信できる人材の育成 —

開催要領

会場研修（9月29日～10月3日 新潟県佐渡島）

令和7年5月

公益財団法人日本離島センター

1. 「島づくり人材養成大学」とは

(1) 趣旨

今日の離島は、「離島振興法」をはじめとする離島の振興に関する法律や施策によって社会資本整備を中心とした振興が図られてきました。しかしながら、グローバル化や情報化社会の一層の進展など、わが国を取り巻く経済社会が急速かつ大きく変化する中で、離島は人口減と少子高齢化、産業の弱体化が他のハンディキャップ地域よりも進展しています。この現況を鑑み、さまざまな課題を克服しながら新たな離島地域社会を構築していくためにも、地域に想いを抱き、独自の創意工夫を凝らしながら島づくりを担っていくことができる人材の育成が急務となっています。

そこで公益財団法人日本離島センターでは、全国の島々でコミュニティの活性化や産業振興に取り組んでいる実践者を中心に、地域づくりの核となるリーダーを育成するための短期集中型の研修「島づくり人材養成大学」を、平成4年度から毎年開催しています。

島づくり人材養成大学では、日常から離れて自分自身を見つめ直し、受講生同士の交流を通して離島の魅力や課題、可能性を共有するなかで、島を取り巻く環境や求められているニーズを的確に把握していきます。そして、島の有形・無形の資源の再発見や有効活用方法の模索などを通じて「島でやらなくてはならないこと」「自分にできること」「自分たちでできること」の具体化を目指します。

生き方や働き方が多様な時代に、創造性を兼ね備えたバイタリティにあふれる人材が、全国の島々からこれまでに延べ696人誕生しています。



鹿児島県徳之島で開催した令和6年度第32期島づくり人材養成大学の模様。島人同士で交流し、お互いの島の課題を共有したり、新しい発想を学び合う。本研修を機に、世代や地域を超えたネットワークが広く強く結ばれつつある。



(2) 建学の精神

- ①島づくりは、地域住民自らの手で工夫し実践する。
- ②地域に誇りを持ち、地域の特色を活かした独創的な島づくりを行う。
- ③グローバル時代にふさわしい広い視野と長期的な視点に立ち、地域住民が求めているもの、地域住民に求められているものを的確に把握し対応する。

以上の視点に立って積極果敢な行動と斬新かつ大胆な発想のできる地域リーダーたる人材を養成する。

(3) 主催

公益財団法人日本離島センター

(4) 後援（予定）

国土交通省／離島振興対策協議会（27 関係都道府県）／全国離島振興協議会（141 関係市町村）

(5) 本講座について

テーマ：「島の日常」のもつ魅力に気づき、発信できる人材の育成

地域のもつ魅力をどのように発信すればよいのか——。日々苦心しながら、創意工夫を繰り返している人も多いのではないだろうか。とかく情報発信は、観光地や新たにオープンする／した店舗など目新しいものが対象になりがちだ。しかし、地域の「日常」にある見慣れた景色や些細な物事のなかにこそ、そこに暮らす人々やその**土地らしさ**が現れてくるといえる。世間一般の価値観や評価軸を意識することも大切だが、自分自身の視点で地域の価値を再発見していくことは、今後さらに重要になってくるはずだ。

日常と**出会いなおし**、見過ごしてきた風景や事物を丁寧に取り出して、多くの方々に伝えていくために、私たちは具体的にはどのようにすればよいのか。佐渡島を舞台に実施する本年度の島づくり人材養成大学では、フィールドワークを通して地域に暮らす人々の視点に寄り添い、そこに築かれてきた景色などに向き合うことの価値を学ぶと同時に、自分自身の視点や各自の島の現状と照らし合わせることで、地域に対する理解をより一層深め、その魅力を捉えなおし発信する手法を身につける機会とする。

2. 募集対象と人数

(1) 募集対象

地域づくりに取り組んでいる、または地域づくりに関心があり、下記条件を満たす者。

- ①公益財団法人日本離島センター、または全国離島振興協議会に加入している市町村の離島に在住している者
- ②全国離島振興協議会の都道府県支部長（支部の設置のない市町村では各市町村長）から推薦された者

(2) 募集人数

25人程度

※受講希望者多数の場合は、事務局にて選抜いたします。

3. 開催期間（スケジュール予定） ※詳細は、後日受講者に連絡します。

(1) 事前オンライン研修（2025年8月26日（火）午後3時～5時）

- ・受講者の顔合わせ、ウェブ上で可能なプログラムを事前ワークとして実施予定

(2) 会場研修（2025年9月29日（月）～10月3日（金）の4泊5日。開催地：新潟県佐渡島）

9月29日（月）

- ・集合：午後1時30分 佐渡市「あいぽーと佐渡」（両津港から徒歩5分）
- ・午後：開講式、ガイダンス、レクチャー・フィールドワーク、交流会

9月30日（火）

- ・午前：事例研究（相川地区）
- ・午後：事例研究（小木地区）

10月1日（水）

- ・午前：レクチャー
- ・午後：フィールドワーク（班別）

10月2日（木）

- ・午前：フィールドワーク
- ・午後：ワークショップ、事例研究（新穂地区）

10月3日（金）

- ・午前：最終発表、ふりかえり、総評、解散式
- ・解散：午後1時30分 両津港

(3) 事後オンライン研修（2025年11月および26年2月頃の計2回）

- ・島に帰ってからの受講者の様子の確認や、本財団の人材育成基金助成事業の募集開始のお知らせ等の情報提供など、講師や事務局によるフォローアップを予定

4. 会場研修の宿泊および参加経費の負担について

(1) 宿泊場所

受講者は、佐渡島での宿泊（4泊5日）を原則とします。1名1室を本財団で確保いたします。

(2) 参加経費の負担について

研修にかかる費用（受講費、教材費、会場費など）、研修期間中の滞在費（宿泊費、食費など）は原則として本財団で負担いたします。

居住地から集合・解散場所（佐渡島両津港）までの往復旅費は受講者自身でご負担ください。

5. 担当講師

比嘉 夏子（ひが なつこ） 合同会社メッシュワーク共同創業者

山梨県立大学特任准教授。一般社団法人みつかる+わかる理事。博士（人間・環境学、京都大学）。「人類学者の目をインストールする」ことをミッションとし、変化を求める組織や知的好奇心を持つ個人などを対象に様々な伴走を行う組織として合同会社メッシュワークを設立。人類学の知見を活かし、多様な人々や現場のリアリティに寄り添いながら、その仕組みや変化を精緻に捉えることで、ボトムアップの社会変革を目指す。著書に『贈与とふるまいの人類学—トンガ王国の〈経済〉実践』（単著、京都大学学術出版会）、『地道に取り組むイノベーション—人類学者と制度経済学者がみた現場』（共編著、ナカニシヤ出版）などがある。

6. 参加申込方法

(1) 提出書類

「第33期島づくり人材養成大学受講申込書」

(2) 提出方法と期限

- ・会員市町村は、受講申込書を取りまとめ、7月7日（月）必着で都道府県支部に提出してください。
- ・都道府県支部（支部の設置のない都道府県の市町村）は受講申込書を取りまとめ、7月14日（月）必着で本財団理事長宛の申込文書を添付し提出してください。
※受講希望者がいない場合にも、本財団宛てにその旨をご報告ください。
- ・後日、申込のあった支部・市町村に「受講決定通知」を送付いたします。詳しい研修内容は、受講者に「受講決定通知」とともに事務局より直接連絡いたします。

7. 問い合わせ先

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館5階

公益財団法人日本離島センター「島づくり人材養成大学」係（担当：佐伯・大川・森田）

TEL 03-3591-1151

E-mail shimadai@nijinet.or.jp

第 3 3 期島づくり人材養成大学受講申込書		受付番号※
		優先番号*
受講者氏名	ふりがな _____ (島名 _____) _____ 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日生 _____ (満 _____ 歳) _____ (男 ・ 女)	
住所※	自宅 ・ 勤務先 ・ その他 (_____) 〒 _____	
連絡先※	電話番号 _____ E-m a i l _____	
職業／ 勤務先名／ 部署		
上記のとおり受講を申し込みます。 2 0 2 5 年 月 日 市町村長名 公益財団法人日本離島センター 理事長 殿		

※住所・連絡先は受講者自身が確認できるものを記入すること